

2014年分子生物学会年会参加者のみなさまへ

第37回日本分子生物学会年会
年会長 小安 重夫

(理化学研究所統合生命医科学研究センター)



ようこそ横浜へ。いよいよ第37回日本分子生物学会年会が始まります。今回は従来の4日間から3日間にわたり、3,000を越える演題が発表されます。

これまで繰り返し申し上げてきましたように、第37回年会は、サイエンスの議論を中心に、皆がデータを前にとことん議論のできる学会を目指してきました。そのために、今年の年会はポスター討論を中心におきましたが、ワークショップも一般演題から多くを採用して構成していただきました。さらに、指定演者にもポスターを出すことをお願いしました。

ワークショップでの議論の後には皆でポスター会場へ移動して、参加者と演者とが議論を戦わしてもらいます。ポスター会場では、最初の30分は自由にポスターを見て頂きますが、次の1時間は奇数番号の方にはポスターの前に陣取って頂き、そこをディスカッサーが順番に周り議論の火付け役兼仕切り役をしてもらいます。次の1時間は偶数番号のポスターで同様な議論をして頂きます。最後の30分は再び自由にポスターを見て頂きます。自分の番が終わったからと言ってポスターをはがすようなことはせず、最後まで議論に参加して下さい。サイエンスを語る時、年季の入った研究者も初めて参加する学生も、同じようにワクワクすることと思います。皆が同じようにディスカッサーや他の参加者を相手に議論を戦わすことをぜひとも楽しんで下さい。

これもまたお約束したように、この時間には他の行事は一切入れておりません。大いに議論して下さい。ディスカッサーは、議論の仕切り役として、ぜひとも大いに年会を活気づけて下さい。よろしく願いいたします。

世界で初めて観察しているかもしれない現象が自分の目の前に現れる時、研究者の心はときめきます。目の前のデータが自然の謎の何を我々に語ってくれているのか、それをじっくり解き明かしていくのがサイエンスの醍醐味ではないでしょうか。役に立つとか立たないとか、そんなことは関係ありません。真実が目の前に現れる、その瞬間に立ち合いたい、それが科学者の研究意欲をかき立てる大きな動機です。そして、そんな興奮を繰り返し味わいたくて研究を続けている人は多いと思います。

若い参加者の中にも既にそのような思いをして、サイエンスにはまった人もいるでしょうし、他人の発表からそのようなときめきを感じる人もいると思います。私もこの年会で色々なサイエンスに出会えることを期待しています。

皆さん、大いに議論をしましょう。